

第6学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 働くということ 高学年4-(4) 勤労・奉仕
資料名 「ぼくの仕事は便所そうじ」 (文溪堂)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立とうとする態度を育てる。」ことを主なねらいとしている。

働くということは生きていくために必要であり、人間が社会生活を送る上での義務でもある。しかし、現代社会において、ニートの問題などの働くことに対する意味や意義を見出せない若者が増加している実態もある。そういった意味から、働くということが単に自分のためだけでなく自分以外の人々の喜びにもつながるということに気付かせることが大切である。働くことに誇りや喜びを感じ、進んで社会の役に立とうということはより豊かな生き方ができるということにもつながり大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、掃除などの決められた仕事については比較的眞面目に取り組んでいる。しかし、自分の仕事以外のことまで気を利かせてやろうとする児童、係活動などで皆が楽しめるように創意工夫をしながら活動する児童はあまり見られない。また、「働く」という言葉のイメージについて尋ねたアンケートでは、「お金のため」や「生活のため」といったしかたなさや義務感を感じているという結果が出た。

そこで、将来の進路を考える中学校に向かうこの6年生の時期に、働くということの意味を考え、自分のためだけにではなく、学校集団や地域社会の一員として、周りの人が気持ちよく過ごせるように働こうという態度を育てることは意義深いと考える。

- 本資料は、東武動物公園の元園長である西山登志雄さんが上野動物園で働き始めたころの話である。「ぼく」の仕事は、誰もがいやがる汲み取り式の便所のそうじ。嫌々やっていた仕事だが、「ありがたい。ありがたい。」というおばあさんの言葉をきっかけに進んでしようと思ふ仕事に対する考え方が変わる。便所そうじという児童にとっても比較的身近なことであるため「ぼく」の気持ちに共感させやすく、ねらいに迫ることができる資料である。

本時指導にあたっては、自分の仕事に感謝してくれるおばあさんの言葉に感動した「ぼく」の気持ちを考え、やりがいをもって働く素晴らしさを感じ取らせることでねらいとする価値に迫っていききたい。導入段階では、将来自分のなりたい職業やその理由、「働く」という言葉に対するイメージについてのアンケート結果をもとにねらいとする価値への方向づけを行う。展開前段では、「ぼく」の気持ちについて話し合い、望まない仕事をしなければならない気持ちや義務感で働く気持ちを味わわせる。また、おばあさんの言葉を聞いた「ぼく」の気持ちの変化を考え道徳ノートに書かせることを通して、自分の仕事に対して評価し感謝してくれる人がいることへの驚きと喜びを感じ取らせ、ねらいとする価値に迫らせる。展開後段では、児童の日常生活の中で仕事をして褒められた経験や、やってよかったと思ふ経験を具体的に振り返らせ、価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、理容師の〇〇さんが病院を慰問し、外に出られない患者さんの髪を切りに行っている話を聞かせ、今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立とうとする態度を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第6学年〇組教室に於いて

- 5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

地域人材:理容師

- 6 準備 資料「ぼくの仕事は便所そうじ」、挿絵、道徳ノート

7 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 将来、自分がしてみたい仕事や「働く」という言葉に対するイメージのアンケート結果をもとに「働く」ということについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ファッションに興味があるから美容師になりたいな。 ○ 今野球を頑張っているので野球選手になりたい。 ○ 「働く」ってお金を稼ぐことじゃないかな。 ○ 「働く」って生活のためにする感じ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>めあて</p> <p>働くということについて考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次のような項目でアンケートをとり、グラフや表にまとめて掲示する。 ・ 将来してみたい仕事 ・ その理由 ・ 「働く」という言葉についてのイメージ
展 開 前 段	<p>2 資料「ぼくの仕事は便所そうじ」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 「ぼく」はどんな気持ちで便所そうじをしていたのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ せっかく飼育員になれたのにどうしてこんなことをしなくちゃいけないんだろう。 ○ 汚いからやりたくないな。 ○ どうしてこんな使い方をするんだろう。 ○ 早く動物の飼育の仕事がしたいな。 <p>(2) おばあさんの「ありがたい、ありがたい。」といった言葉を聞いてどんな気持ちになったか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>「ありがたい。ありがたい。」といったおばあさんの言葉を聞いて、かなづちでぶんなぐられたくらいショックを受けた「ぼく」は、どんな気持ちだったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ こんな風に思ってくれている人もいるのか。がんばろう。 ○ 自分の仕事ぶりに気づいてくれている人もいるのか。 ○ やっていてよかった。それならもっときれいにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して、資料「ぼくの仕事は便所そうじ」の概要をつかませる。 ○ 便所そうじを嫌々やっている「ぼく」の心情に共感をもたせるため、汲み取り式のトイレの写真を見せ、補足説明をする。 ○ 「ぼく」の「働く」ことに対する気持ちの変化を共感的に理解させるために、「ぼく」の心情を思い浮かべ道徳ノートの吹き出しの中に気持ちを書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ この便所そうじがこんなにも感謝されるのはどうしてかを考えさせるようにする。 ○ 多くの会社などで最初にする仕事は便所そうじであることを知らせる。
展 開 後 段	<p>3 自分の生活を振り返り、日常生活の中で仕事をして褒められた経験ややってよかったと思う経験とその時の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 委員会の仕事で先生に褒められてうれしかった。 ○ 朝のクリーン隊の活動で地域の人からお礼を言われ、とても気持ちよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 係の仕事や清掃、委員会活動、家庭での仕事などで褒められた経験ややってよかったと思う経験などを道徳ノートに書かせ、具体的に振り返らせる。
終 末	<p>4 ゲストティーチャーの〇〇さんの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのような思い（やりがいやこだわりなど）でお仕事をされているか、また患者さんに喜んでもらった時の気持ちや仕事を続けようという気持ちを聞き、今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

8 板書計画

仕事についてのアンケートの結果から

- ・ 将来なりたい仕事とその理由
- ・ 「働く」という言葉のイメージ

スポーツ選手

医者・看護師

保育士

パティシエ

お金を得るため

家族を支えるため

社会の役に立つため

めあて

働くということについて考えよう。

『ぼくの仕事は便所そうじ』

ぼくはどんな気持ちで便所そうじをしていたのでしょうか。

- ・ せっかくな飼育員になれたのにどうしてこんなことをしなくちゃいけないんだろう。
- ・ 汚いからやりたくないな。
- ・ どうしてこんな使い方をするんだろう。
- ・ 早く動物の飼育の仕事がしたいな。

「ありがたい。ありがたい。」と言ったおばあさんの言葉を聞いて、ぼくはどんな気持ちでしょう。

- ・ こんな風に思ってくれている人もいるのか。がんばろう。
- ・ 自分の仕事ぶりに気づいてくれている人もいるのか。やっつけてよかった。
- ・ それならもっときれいにしよう。

仕事をしてほめられた経験ややってよかったと思つた経験、その時の気持ち。

・

・

9 道徳ノート

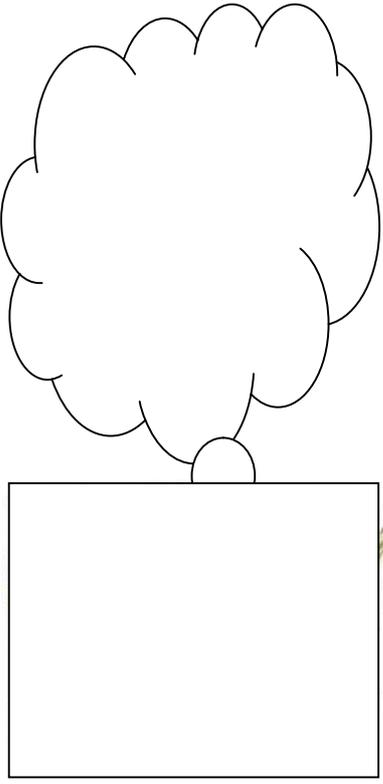
道徳ノート
六年 組 名前 () 月 日 () ()

めあて

働くということについて考えよう。

『ぼくの仕事は便所そうじ』

○ 「ありがたい。ありがたい。」と言ったおばあさんの言葉に、かなづちでぶんなくられたくらいショックを受けたぼくはどんな気持ちでしょう。



○ 自分がこれまで仕事してほめられたことややってよかったと思つた経験をふり返りましょう。また、そのとき、どんな気持ちだったでしょう。
